

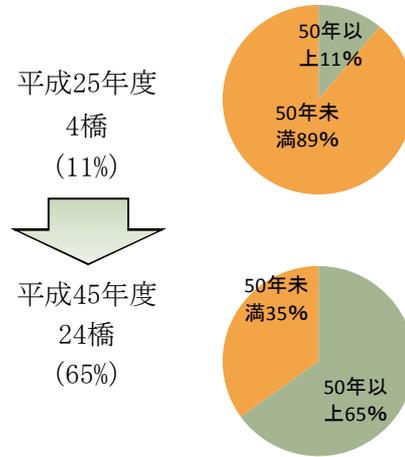
1. 長寿命化修繕計画の目的

1) 背景

本村が管理する橋梁は、平成25年度現在で154橋架設されている。このうち、修繕計画対象橋梁は37橋である。

対象橋梁37橋のうち、建設後50年を経過する橋梁は、平成25年度現在で、全体の11%を占めており、20年後の平成45年には、65%程度に増加する。

これらの高齢化を迎える橋梁群に対して、従来の対症療法型の維持管理を続けた場合、橋梁の修繕・架け替えに要する費用が増大することが懸念される。



2) 目的

このような背景から、より計画的な橋梁の維持管理を行い、限られた財源の中で効率的に橋梁を維持していくための取り組みが不可欠となる。

コスト削減のためには、従来の対症療法型から、“損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う” 予防保全型へ転換を図り、橋梁の寿命を延ばす必要がある。

そこで本村では、将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図るために、橋梁長寿命化修繕計画を策定する。

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	村道 1級	村道 2級	村道 その他	合計
全管理橋梁数	26	21	107	154
うち計画の対象橋梁数	10	5	22	37
うちこれまでの計画策定橋梁数	0	0	0	0
うち平成25年度計画策定橋梁数	10	5	22	37

長寿命化修繕計画の対象：

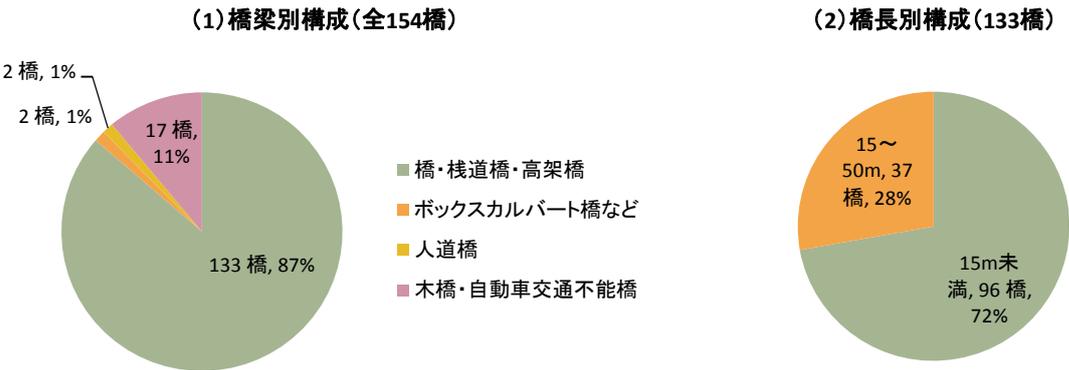
- ・ 橋長15m以上の道路橋で、自動車交通不能橋を除く。

3. 橋梁の現状

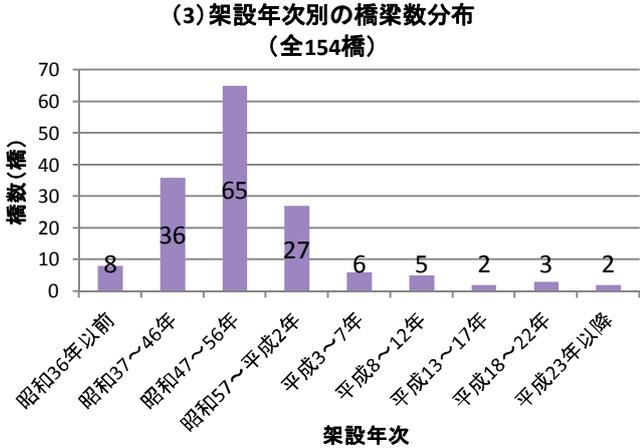
1) 管理橋梁

本村が管理する橋梁数は、平成25年12月時点で154橋あり、橋梁区分別の構成は、道路橋が全体の133橋と約9割を占めている。

橋長別の構成では、道路橋133橋のうち橋長15m未満の橋梁が96橋と約7割を占めている。

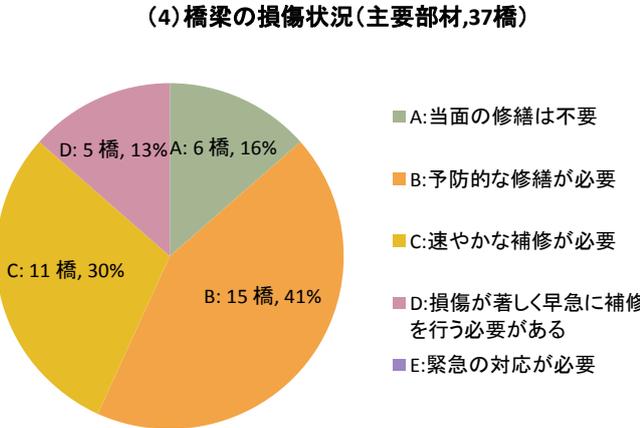


全154橋の橋梁の架橋年別の構成については、昭和37年から平成2年にかけて多く整備されており、橋梁の更新時期の目安とされる建設後50年に架替を行うとすると、今から20年後の2030年～2040年に更新需要の大きな山場を迎えることとなる。



2) 橋梁の損傷状況

本村では平成24年度に橋長15m以上の橋梁40橋について橋梁定期点検を行った。そのうち主要な橋梁37橋では、橋梁を構成する主要な部材において、緊急な対策が必要な損傷(E)は発見されなかったが、全体の84%にあたる31橋に何らかの劣化・損傷(B～D)が発見された。



4. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

定期点検（概略点検）や日常的な維持管理によって得られた結果に基づき、橋梁の損傷を早期に発見するとともに健全度を把握する。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

パトロール車による走行面の変状について点検を行う。

5. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

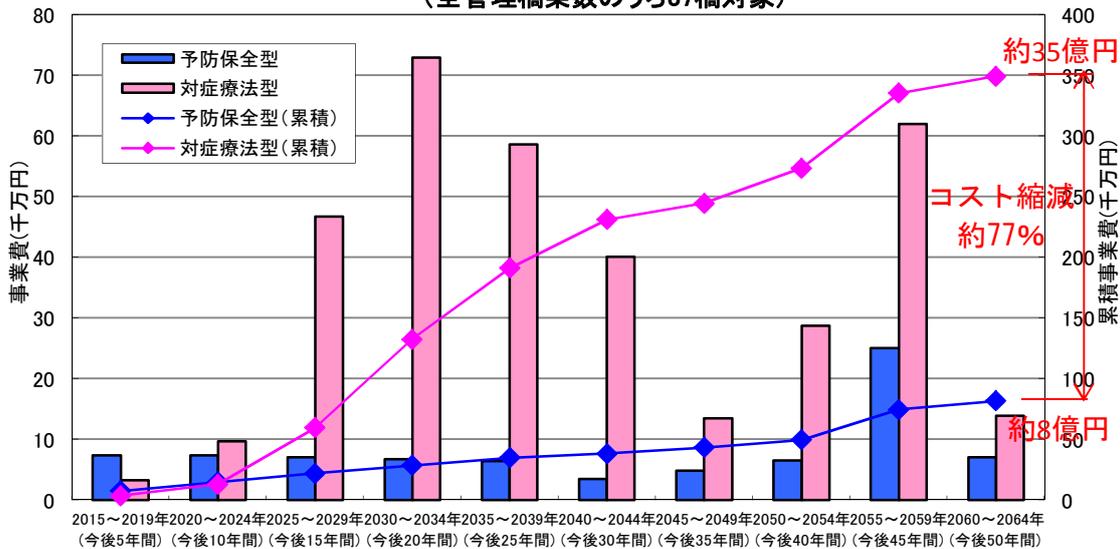
本村が管理する橋梁の中で、架設後30年以上経過した橋梁は全体の約65%を占めているため、近い将来一斉に架替時期を迎えることが予想される。したがって、計画的かつ予防的な修繕対策の実施へと転換を図り、橋梁の寿命を100年間とすることを目標とし、修繕及び架替えに要するコストを縮減する。

6. 長寿命化修繕計画による効果

長寿命化修繕計画を策定する37橋について、今後50年間の事業費を比較すると、従来の対症療法型が35億円に対し、長寿命化修繕計画の実施による予防保全型が8億円となり、コスト削減効果は27億円となる。

また、損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性・信頼性が確保される。

今後50年間の対症療法的修繕と予防保全的修繕の将来経費予測
(全管理橋梁数のうち37橋対象)



7. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

1) 計画策定担当部署

南牧村 振興整備課 建設係 tel : 0274-87-2011代

2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

前橋工科大学 工学部 社会環境工学科 岡村 雄樹 准教授